

みて！みて！看護 第35号

発行日 2016年6月 編集 看護サービス委員会

2016年4月16日熊本地震が発生し、多くの方が被災されました。当院からも災害支援ナースとして、2名の看護師が被災地へ派遣され、看護支援活動を行いました。今回はその活動内容を紹介したいと思います。

災害支援ナースとは？



災害支援ナースとは…看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者の健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職の事です。



5階 浦辺さん



自衛隊が設置したお風呂です。



3階 水野師長さん

被災地の状況
具体的な活動内容

派遣先は阿蘇郡西原村の河原小学校で、約300名弱の方が避難されていました。主に救護室を訪れる方の対応を24時間体制で行いました。また巡回した時に、気になった方へのバイタル測定や保健師への引き継ぎを行いました。

被災地での支援の工夫点

今回は、前任者からの引継ぎで支援に入り、スケジュールを追加・修正して活動しました。外傷の処置用の洗浄ボトルをペットボトルで作成するなど、災害現場ではそこにある資源を活用しなければなりません。

被災地に行って
わかった事

被災地での活動は今回が初めてでしたが、慣れない場所でどう対応してよいか、どのように声をかけたらよいか、戸惑うことも多くありました。しかし、被災者の方の訴えを聞き、今一番苦痛なことは何かを理解し、その1つ1つにできる限り対応していくことで、「初めてよく眠ることができた」との声も聞かれ、嬉しく感じられた場面もありました。

自分たちの目で被災者の方が何を必要としているかを把握し、活動します。今までの臨床での経験が現場で役に立ちました。



これで傷を洗います。

飲料水用のペットボトルで作りました！



学童教室を救護室として利用しました。

